

1年 組 番 氏名 _____

班名

班長(司会・進行を行う) _____

班員は _____

私たちの「研究テーマ」は、(マルを1つつける)

1 人口流出抑制、2 超高齢社会、3 農業・食文化の発展、4 持続可能な公共交通、5 外国人旅行者獲得である

江風探究ユニット③ (全5時間)

探究テーマ「新潟市の課題について、解決のための仮説を設定し、実証(検証)する！」

目的：新潟市の課題について、解決のための仮説設定から結論に至るまでの一連の活動を通して、2年次の課題研究にもつながるような仮説設定力、計画力、実証力、考察力を養う。

ステップ3 (「リサーチエスチョン」を班で設定する) ☆再掲

各自のアイデアを基に、班全員でリサーチエスチョンを何にするか協議する。

私たち _____ 班は次のように「リサーチエスチョン」を設定する！

【重要】チェックリスト：1 すぐに答えが出てしまわないか？ 2 現状を調べるだけで終わってしまわないか？ 3 見通しが立ち、実行可能か？ 4 検証には何が必要か？ それは準備可能か？ など

ステップ5 (「仮説」を1つにしぼり、その根拠も示す) ☆再掲

【仮説】私たちは、「リサーチエスチョン」の仮説(「答え」の予想)を次のように設定する。

【根拠】

担当者1	担当者2

ステップ6 (仮説を検証するために、調査・研究の計画を立てる) 10月2日

仮説を検証するための研究手法は、文献調査、アンケート調査、インタビュー調査（質問を含む）、実験、参与観察（※特定の組織やグループにその一員として参加してデータを収集する手法）などがある。

どの班も文献調査は必要である。文献調査とは、論文や報告書、書籍や手紙など、これまでに書かれた文書・記録を用いて、リサーチクエスションの答えにアプローチする手法である。インターネットや図書館を活用するのがよい。

下記の計画表は、文献調査をする場合と、その他の研究手法のものである。下記の計画表に基づいて、どのような資料が必要なのか、また、その資料を誰がいつどのように調べるのか、各班で計画を立てよう。

少なくとも、1人が1つ以上調べるように、分担すること。計画ができあがったら、2名の担当者に見てもらうこと。

【文献調査の計画表】

必要な資料	誰が	いつ	どのように

【他の研究手法の計画表】（アンケート調査、インタビュー調査（質問を含む）など）

必要な調査	誰が	いつ	どのように

ステップ7 (仮説を証明するために、調査・研究を実施し、結果を記録する) 3日~22日

このステップでは、仮説の真偽を確かめるための調査・研究を実施する。各自が探究心と責任をもって、調査を進める。調べていくうちに新たに調べたいことが出てくるはずである。それらも含めて、下記に記録を残すこと。紙面が足りない場合は、ルーズリーフなどに記録して、それを別紙として添付してもよい。調査・研究で用いた文献や資料は、あとで確認できるように、必ず下記のように記録を残すこと。

【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード
【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード
【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード

【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード
【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード
【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード

【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~ P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード
【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~ P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード
【分かったこと】	【参考資料】 本・雑誌等	書名
		論文名
		著者
		出版社
		利用したページ P. ~ P.
【分かったこと】	インターネット	タイトル・作成者
		情報を確認した日
		URL http://
		検索キーワード

担当者1	担当者2

ステップ9 (調査・研究の結果を考察し、結論を導く) 10月16・23日

「考察」とは、調査・実験によって得られた結果を分析することで、**結果に含まれる事実や次の研究につながる問い、そしてリサーチクエスションの答えとなる結論**を導く、非常に重要なステップである。「考察」を通して、自分たちが立てた仮説が正しかったのかどうか、明らかにしよう。

「考察」をよりよいものにするコツは、得られたデータから「新たな問い」(「なぜ?」「どのように?」「条件が異なると、どうなるか?」など)を発見し、それに可能な限り、答え続けていくことである。(このステップの終わりに、記録係のワークシートを2名の担当者から見てもらう。)

例 考察から結論までの流れ

- 〔考察1〕 結果1 → 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い → (以下繰り返し)
- 〔考察2〕 結果2と4 → 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い → (以下繰り返し)
- 〔考察3〕 結果3 → 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い → (以下繰り返し)
- 〔考察4〕 結果5 → 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い → (以下繰り返し)
- 〔考察5〕 結果6と7 → 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い → (以下繰り返し)

▽

〔考察1〕・〔考察2〕によって、〇〇ことが分かった。……**根拠①**

〔考察3〕・〔考察4〕によって、〇〇ことが分かった。……**根拠②**

〔考察5〕によって、〇〇ことが分かった。……**根拠③**

▽

【結論】「これら3つの**根拠(①~③)**から、高い可能性で次のような**結論**を導くことができる。その**結論**とは、〇〇ということだ。よって、私たち〇班が設定した仮説は……」

考察	調査結果から言えることは何か? 新たな問いは? その答えは?
1	

考察	調査結果から言えることは何か？ 新たな問いは？ その答えは？



以上の「考察」から分かったことを下記にまとめ、「結論」を導くための「根拠」（3つか4つ）とする。

根拠	「考察」によって分かったこと＝「結論」を導き出すための「根拠」（3つか4つ）
1	



結 論

ステップ10 (今後の展望を考える) 10月23・30日

今回の研究を振り返り、何が解決されたのかを明らかにしよう。さらに、今後その成果をもとにどのような研究や取り組みが期待できるかを、書いてみよう。各自で取り組んだ後、情報交換を行い、他の意見もできる限り記録すること。

① この研究で明らかになったことは何か？

② この研究によって、どのような変化（貢献）が見込めるか？

③ この研究から生まれた新たな問い（疑問）や、解決できなかったことは何か？

新潟市市役所相談窓口

- 経済部 雇用政策課
- 福祉部 地域包括ケア推進課
- 保健衛生部 保健衛生総務課 健康政策室
- 都市政策部 都市交通政策課
- 農林水産部 農林政策課
- 観光・国際交流部 国際観光課